

# 確かな学力

## ●●● 授業改善 ●●●

### 視点 学習集団づくり・学級経営

子どもが互いに認め合い、高め合う集団づくりに取り組みましょう。

- ☆**集団づくりの過程を通じた学習規律・望ましい人間関係の形成**
  - 集団で学び合うことの価値を実感させる経験をもたせましょう。
  - 話し合い活動など様々な活動の中で、聴く態度や人とのかわり方を身に付けさせましょう。
  - 人の発言を静かに聞く等、発達の段階に応じた規律を身に付けさせましょう。

- ☆**共に取り組む学級経営**
  - すべての学級で共通して取り組む目標や活動をもちましょう。
  - 学年会等で話し合う機会をもちましょう。

### 視点 学校の体制づくり

全教職員で、めざす子どもの姿の実現をめざして取り組みましょう。

- ☆**全教職員による取組**
  - 全教員が研究授業を公開しましょう。
  - 学力調査の結果分析や研究テーマの設定の場では、全教職員で課題と方向性を共有しましょう。
  - 教職員が集団として個として力量を高められるよう、組織的に校内研究をすすめましょう。

- ☆**研究授業と協議の活性化**
  - めざす子どもの姿が共有できるよう焦点化して気付きの交換をしましょう。
  - 授業者の課題を明確にし、その課題解決に沿った授業研究にしましょう。
  - 協議では、外部講師を積極的に招き、異なる視点から助言を受けましょう。

### 視点 家庭・地域・異校種との連携

子どもの生活習慣を、家庭・地域・校種間連携の中であぐくみましよう。

- ☆**家庭・地域と連携した生活習慣の育成**
  - ふるまい向上を、学校の取組と PTA 活動の連携へのキーワードにしましょう。
  - 連携した取組が、ポスターや標語等で、家庭や地域にみえるように工夫をしましょう。
  - 望ましい生活習慣をはぐくむために、重点を明確にしましょう。

- ☆**幼・保・小・中・高の連携**
  - 発達段階を見通した子ども像を共有しましょう。
  - 子どもが「家庭学習の手引」を使って学習できるよう、活用の仕方を工夫をしましょう。
  - 子どもへの学びや育ちに関する情報を確実に引き継ぎましょう。

### 視点① 目標、指導、評価の一体化

- ★ 評価規準で示した子どもの姿が表れているかを見取り、柔軟に授業を展開しましょう。

### 視点② 思考力・判断力・表現力等の育成

- ★ 言語活動を意図的・計画的に行いましょう。
- 学校図書館を効果的に活用しましょう。

〈 本 時 〉

#### 目標と評価規準の設定

本時のねらいを、各教科等の特質と子どもの実態に応じて、明確に設定しましょう。

評価規準として、ねらいが達成されたときの子どもの姿を、具体的に設定しましょう。

#### 展開と指導

導入

ねらいに迫る課題が、子どもに明確になるようにしましょう。

- ・ 習得した知識・技能を活かす。
- ・ 生活経験等とのズレを生じさせる。
- ・ 子どもとの対話を深める。
- ・ 提示方法を工夫する。

展開

ねらいに沿って、子どもがじっくりと考える場面をつくりましょう。

- ・ 中心となる学習場面を明らかにする。
- ・ 子どもの思考をうながす発問を工夫する。

授業を方向づけましょう。

- ・ 子どもの考えを把握する。
- ・ 発言の取り上げ方を工夫する。
- ・ 発言を価値付け、まとめる。
- ・ 受容の評価言をする。

言語活動を行う場合は、

- ・ 何のための活動か(目的)
- ・ どのようにする活動か(方法)などを明確にして、適切な学習場面を設定しましょう。

子どもの姿を見取り、柔軟な授業展開を心がけましょう。

- ・ 指導の方向を修正する。
- ・ 発問を組み立て直す。
- ・ 個別の支援を行う。



終末

ねらいに照らした終わり方を意識しましょう。

- ・ 板書で今日の勉強を振り返る。
- ・ ポイントとなった発言を振り返る。

#### 評価

評価規準に照らして評価し、その結果を、今後の指導につなげましょう。

### 視点 学習支援

子どものつまずきを見落とさず、個への支援と学級全体への支援をしましょう。

- ☆**子どものつまずきへの具体的支援**
  - 問題数を調整したり、注意喚起をしてから問いかけたりするなど、個に応じた支援を充実させましょう。
  - 授業以外の時間で相談できる場を設けましょう。
  - 子どもの情報が共有された支援になるよう、情報交換を意識的に行いましょう。

- ☆**授業のユニバーサルデザイン化**
  - 情報を整理して構造的な板書をしたり、挿絵や図などを使って視覚的な提示をしたりしましょう。
  - 具体的な指示や短い言葉でポイントを絞った説明になるように意識しましょう。

### 視点 指導計画の充実

他教科等との関連等を図った指導計画を作成しましょう。

- ☆**指導に活用できる指導計画の作成**
  - 全体計画では、指導目標と各教科等及び各学年相互の関連を明確にしましょう。
  - 年間指導計画では、道徳との関連と学校図書館の活用を明確にしましょう。
  - 単元等の指導計画は、「学習評価を生かした授業改善、授業づくりのためのハンドブック」(島根県教育委員会)等を活用し作成しましょう。
  - 特別支援学級と通常の学級の交流及び共同学習は、それぞれの指導計画に基づき、意図的・計画的に実施しましょう。

### 視点 教育課程編成・実施・評価の工夫

学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた特色ある教育課程を編成しましょう。

- ☆**教育課程に関して全教職員の共通理解**
  - 学習指導要領総則編や「小学校・中学校教育課程の編成・実施の手引」(島根県教育委員会)等を用いて研修の機会をもちましょう。
  - 編成にあたる組織を確立したり、作業分担をしたりしましょう。

- ☆**実態や課題の的確な把握と教育目標の共通理解**
  - 学校評価や学力調査等の結果など客観的な資料を活用しましょう。
  - 教育課題に応じた学校の教育目標を、全教職員が共通に理解しましょう。

- ☆**教育課程の編成と評価の計画的実施**
  - 学校の教育目標の実現を目指し、特色ある編成をしましょう。
  - 評価の時期や方法を明確にし、評価を改善に活かしましょう。